

さやかに風も吹いてゐる

中原中也「山羊の歌より」－帰郷－

松田紀之

筑波フォーラム編集委員（委員長）

システム情報工学研究科社会システム・マネジメント専攻教授

（まつだ のりゆき／認知心理、情報デザイン）

1980年7月に赴任して以来、地域のめまぐるしい変化を見続けているうちに、つくばに故郷を感じるようになりました。ちょっと脚を延ばせば、八郷の心む風景にも接することができます。

それはさておき、私の研究室は留学生に占拠されている感があります。中国、台湾、バングラデッシュ。前期修士課程での特定課題研究の指導学生を含めると、出身国がさらに多様になります。

英米、独仏に負けじと、日本では更なる留学生増加方針を打ち出していますので、これからも多国籍化が進むことは間違いありません。

形式的な規定は忘れましたが、留学生とは看做されない外国人学生に接する機会が多くなった気がします。社会学類での授業で、しっかりしたレポートを読み、学力低下が叫ばれる中、まだまだ優秀な学生がいるのだと気を良くして、ふと提出者の氏名を見ると、おやっ、と気付くことが珍しくなくなりました。

そういう学生に入学した経緯を尋ねてみると、親の仕事の関係で家族で移り住んで

いるとのこと。小中学生の頃から日本にいれば、並の日本人学生より日本語ができるようになって不思議ではありません。

可能性として考えられるのは、大学を卒業してから来日する留学生の就職上のライバルは、早くから日本に馴染んでいる同胞人だということです。

日本人の人口構造の変化、経済のグローバル化の進展等々、時代の流れを受け、企業の側も共同で「外国人留学生のための就職フェア（JOBFAIR.JP）」を開催するほどです。参加企業50社の顔ぶれをみるにつれ、日本全体が大きく変わろうとする動きを感じます。さやかな風どころではなく、地殻変動です。

社会学関連の就職委員会委員長も務めている関係で、特にそう強く感じるのかもかもしれません。

[2007年度、フォーラム編集委員長]

